

## 役員就任挨拶



### 北海道の技術士が地域再生のモデル作りを

(社)日本技術士会 北海道支部  
支部長（建設／総合技術監理部門）

齊 藤 有 司

この度、大島支部長の後任として支部長に就任しました齊藤でございます。前支部長のもと、副支部長や本部理事として、皆様の熱い思いを北海道発のメッセージとして全国に発信してまいりました。

今、技術士の社会的認知度の向上と社会貢献のあり方が問われております。

昨年、開催された洞爺湖サミット、今年開催された太平洋島サミット、いずれも環境問題が中心の議題になっております。北海道のこの素晴らしい自然環境の中だから、我々が失ってきた自然を、環境をもう一度考え再生の道を探る議論をすることが出来たのではないのでしょうか。ニセコのパウダースノー、知床の秘境の景観、茫漠とした釧路湿原、いずれも、我々の身近にありすぎて、その、素晴らしさに我々自身が気付いていなかったのではないのでしょうか。

オーストラリアや香港など、外国の方々の賞賛の声を聞きます。韓国の方々も多数、北海道の自然の素晴らしさに魅入られリピーターになったとテレビで放映されておりました。

ただ、自然をそのまま提供するのではなく、そこに、大きな付加価値をつけることを忘れてはいけないと考えます。滞在型の心の癒しを付加した観光、農業や漁業などを実体験する観光、スキーなどスポーツに特化した観光が思い浮かびます。また、北海道の大地が生産した新鮮な野菜や魚を現地で観光客に安価で提供することも大切です。地域が、観光客をもてなす仕掛けが必要です。この恵まれた資源をどう開発し活用するかに懸かっています。

北海道の技術士は、地域再生のモデル作りのコーディネーターとして産・学・官を結びつけ、その中心となって地域再生の牽引車となろうではありませんか。先日、札幌で全国経済同友会のセミナーが開催されました。「地域資源のブランド化を考える」という分科会で価値観の多様化の話がありました。地域が自立し、しっかりとしたビジョンを持つことが大切であるとの発言がありました。

Be Ambitious がセミナーのテーマでした。大きな志を持って、明治の先人が北海道を開拓したように、今、我々は地域の再生に、頭脳という鋏を持って立ち上がらなければならないのではないのでしょうか。企業内技術士であっても、それぞれの活動の場で提案してゆけば問題ありません。

そのためには、技術士と産官学の方々との交流が不可欠です。そこで、先ず、情報を共有しそれぞれがどのようなニーズを持っていらっしゃるかを把握する必要があります。支部長として、積極的にこのような機会を創出して行きたいと思います。

さて、地球温暖化は、我々の予想を遥かに超え進んでおります。人口の劇的な増加や経済の発展により、確実に悪化の一途をたどっています。私達技術士も、経済と環境の両立をめざし、持続可能な社会作りに貢献してゆきたいと思います。また、未来の子供達が科学の進展に大きな夢を持ってもらえればと思います。その、土台作りも進めたいと思います。

元気な北海道を取り戻すために、地域再生のモデル作りに皆様とともに汗を流したいと思います。